令和3年度 学校評価表

教育目標	
	「自主・創造・忍耐」の校訓のもと、ひとつ上の自分を目指す、こころ豊かで自立する人間づくりを推進する。
	（1）自己肯定感と自尊感情を高めながら自主的に行動する力を育てる。
	（2）将来の夢や目標への道を切り開く力を身につけさせる。
	（3）地域に理解され、信頼される学校になる。

アンケート
1＝思わない、2＝あまり思わない
3＝普通、4＝やや思う、5＝思う

分掌	目標	具体的取組		自己評価	1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
1年	❶自分自身を律する力を育てる	❶（1）無断遅刻が重なる者に対して面談を行い、自分自身で問題点を発見させるとともに、解決策を考えさせ、実行させる。 （2）学年集会において、自分たちで時間を守り整列点呼できるようにさせる。 ❷（1）講演会にポートフォリオノートを持参し、メモを取りながら話を聴く習慣をつけさせる。また、自分が印象に残ったことや考えたことを他者とシェアさせることに継続して取り組む。	（2）ペアワークを行う際に、うなずきや笑顔、アイコンタクトなど、聞き方・話し方の基本スキルを身につけさせる。 ❸（1）安易な指導に流れず、生徒に問いかけ、考えさせ、自ら行動させる指導をする。 （2）文章を読み、本を読むことを習慣にさせる。そのために、学年通信を通じて、年間で30冊以上の本を紹介する。また紹介した本を、学年のフロアに展示し、生徒が実際に手に取れるようにする。	❶(1)60点。遅刻者に対してその都度、理由と改善策を話させることで改善を図った。自分を律する力はまだまだ足りないが、問題意識を持たせることはできた。 ❷(2)90点。教員が指示して並ばせることなく整列ができるようになった。	3.3			3.2			3.7
	❷他者との対話を重ね、豊かな人間関係を築くことができる力を育てる			❶(1)60点。ポートフォリオノートはある程度定着した。メモを取りながら話を聴くのが難しい者が多い。話を聴いて自分の考えをアウトプットする活動は定着した。 ❷(2)70点。ペアワークは自然に出来るようになった。聞き方・話し方ともに向上が見られる。	3.7			3.7			3.2
	❸自立する力を育てる			❶(1)90点。学年教員全体が同じ意識を持ち、安易にshould, mustの指導に流れず、生徒に問いかけ、考えさせる指導ができた。 ❷(2)70点。2月末までで、47冊の本を紹介し、学年フロアに展示した。本に親しむ生徒数は増えたが、まだまだ少ない。	3.4			3.4			3.6
2年	❶自分自身を律する力を育てる	❶（1）校則を守れる人間を育てるために、身だしなみ指導を徹底する。指導の中で、生徒と話し込むことで、何が悪く、何をすべきかを理解し、自ら正せる力を身に着けさせる。 （2）学習面では、学習する時間を確保し、周りに流されずにやり遂げる強い意志、力を身に着けさせる。 ❷（1）指導面全般において、話を聞く姿勢を大切に、生徒理解を努めると同時に、やってはいけないことに対して毅然とした姿勢で臨むことで、生徒との信頼関係を築いていく。 （2）生徒との関係は、家庭の協力も必要不可欠で、保護者との連携を密にする。。	❸（1）オープンキャンパスの参加や面談を通して進路について積極的に話し合う。 （2）平常補習、自習室の設置など放課後、学校で学べる場を設置し、学習環境を整える。 （3）小論文指導、面接指導、模試の分析など入試への意識と入試に向けた力を向上させる。 ❹（1）遠足、文化祭、修学旅行などの学校行事で、係など役割を与えることで自主性を育てる。 （2）学習面では、自ら学習計画を立て実施する力を身に着けさせる。 （3）進路指導面では進路指導室の活用を促し、自ら調べ、自分の進路を見つける力を身に着ける。	❶（1）1年生のころに比べると、守れない生徒が減った。また、守れなくても、注意することで素直に直すことができるようになった。 （2）周りに流される生徒は依然として多い。現在、学習に取り組む姿勢についての指導の継続をしている。		3.6		3.6		2.6
	❷生徒と教員との信頼関係の構築			❷生徒との接し方、保護者との連携により、信頼関係をきちんと構築出来ている。		3.3		3.3			3.3
	❸進路実現に向けての学習習慣の確立と学力の充実・向上			❸学習習慣の定着に関しては、頻繁に集会を行うことで、定着傾向がある。受験に向けた、具体的な指導は、今後実施していく予定である。現在、図書館利用を進めている。		3.3			3.3		3.2
	❹自立する力を育てる。			❹ 修学旅行を通して、責任感を持って役割を成し遂げることが出来た。養った自立心を、学習面に生かすことが今後の課題である。		3.4			3.5		3.4
3年	❶自立した人間になるための進路目標の設定とその達成	❶（1）LHRでの進路学習や学期ごとの個別面談・進路希望調査などで、卒業後の進路目標を設定し、その実現に向けて前向きに努力させる。 （2）進路学習を通して、社会人になる自覚を持って、望ましい職業観、勤労観を身に付ける。 ❷（1）遅刻者への対応を毎朝実施。また月に1回、遅刻者指導を行って、遅刻・欠席なしで毎日元気に登校する姿勢を身につけさせる。 （2）始業前の立ち番や週1回の身だしなみ指導を行い、挨拶を励行し、節度ある身だしなみを保たせる。 （3）行事や集会などを通して、集団行動において規律と節度ある行動をとらせる。 （4）教員とともに清掃活動を行うことによって、毎日の清掃活動に積極的に取り組ませる。	❸（1）毎日の家庭学習の時間を記録させ、月一回その結果を個票にして各人に示すことで、学習習慣を確立し、希望する進路実現のための学力の向上をはかる。 （2）アクティブラーニングや各教科の課題に取り組ませることで、日常の授業を前向きに取り組ませる。 （3）定期考査前の補充授業や平常補習、夏休みの補習、週2回の朝の小テスト等を実施することによって、勉学に励み考査に臨む意義を理解させ積極的に取り組ませる。 ❹（1）最高学年としての自覚と責任を持ち、学校の中心となってHR活動・生徒会活動・憧華祭・体育大会等の特別活動やクラブ活動に積極的に取組み、コミュニケーション能力、リーダーシップ、責任感、社会性、協調性等を高め、人として成長する。学年通信に生徒の作文を載せることによって、その成果を示す。	❶・ ❸ 生徒の進路に関する意識は、1・2年次に比べかなり高まった。3年になってからは、連日、職員室前の自習机や図書室、進路指導室等の利用が見られ、放課後の教室での担任との面談や小論文指導、模擬面接等、積極的に取り組んでいた。			3.7			4.3	3.6
	❷基本的生活習慣を確立し、社会人としての良識とコミュニケーション能力を身に付けた生徒の育成			❷ 多くの生徒はルールやマナーを守って学校生活を送っている。しかしながら、3年になっても、毎日、40名程の遅刻欠席は相変わらずで、スマホゲーム等に自制が効かず深夜に寝て、遅刻をする。授業中に居眠りを繰り返し、四者面談等によって生活習慣の見直しを求めても、応じられない生徒もいた。アルバイト疲れも疑われる。また、身だしなみ指導においても、機会あるごとに個別指導等を行うものの、家庭の協力をなかなか得られず、改善が進まない生徒も少なからずいて、日々の時間を費やさざるを得なかった。				3.6		3.6	3.2
	❸学習習慣の確立と学力の充実・向上			❹ 今年度は例年より長く、1学期末まで3年生中心の生徒会が活動している。コロナ禍の制限にあっても、生徒それぞれが工夫を凝らし、部活や憧華祭、体育大会などで、前向きに取り組む姿勢は、これからも受け継がれていくと思われる。			3.5			4.1	3.5
	❹特別活動・課外活動への積極的参加による人格の涵養						3.5			4.0	3.3
総務	❶開かれた学校づくりと適切な情報発信	❶（1）公開授業やオープンハイスクール、ホームページなどでの広報活動を活発に行い、中学生や保護者に向けて東高の魅力を発信する。 （2）中学生、中学校関係者に配布する「学校案内」の内容を充実させる。本校が育てたい生徒像等がわかりやすく伝わるように工夫する。 （3）上記（1）・（2）の取り組みにより、平成4年度入試の志願者数（第一志望）の昨年度比40名（1クラス）増をめざす。 ❷（1）校内の美化活動を推進し、生徒が安心して学習活動に取り組める環境づくりに努める。 （2）美化委員を活用した啓蒙活動、生徒会の取り組みである「美化ウィーク」との連携、総務部による清掃点検を行う。	❸（1）避難訓練（防災教育）を年間2回行う。訓練に際しては、消防署等の関係部署とも連携し、より効果的な内容をめざす。 （2）「災害および危機対応マニュアル」をより実効性のあるものにするため、内容の更新・見直しを行う。	❶（1）オープン・ハイスクールに参加した中学生・保護者へのアンケート結果から、概ね高評価をいただいた。オープン・ハイスクールⅠ（「良かった」91%、「やや良かった」を加えると100%）、オープン・ハイスクールⅡ（「良かった」80%、「やや良かった」を加えると98%）。特に本校生・職員の接受、生徒の発表に良い印象を持っていただいたようだ。 （2）「学校案内」を積極的に中学生に配布し、ホームページにも掲載し、本校の特色や魅力を発信した。 （3）学校全体の精力的な取り組みにより、令和4年度入試志願者数（第一志望）は、昨年度比30名の増加となった。	2.7	2.9	2.9	3.0	3.3	3.1	3.4
	❷美化活動の推進			❷日々の掃除当番を通して、校内美化の促進を行った。また、生徒会主催の校外清掃時に、校内の清掃もあわせて行うことができた。生徒とともに学校美化に取り組むことができた。	2.3	2.4	2.6	2.4	2.6	2.5	3.3
	❸防災教育の充実			❸特に12月の防災避難訓練では、消防署との強い連携のもと、生徒は緊張感を持って防災講演会や訓練に臨むことができた。また、この避難訓練では生徒の一部が逃げ遅れてケガをし自力で脱出できないという設定で行った。この方法は、職員にとっても良かったという意見を複数聞いている。	2.9	3.1	3.2	2.7	3.0	2.8	3.2
教務	❶基礎的・基本的内容の定着・充実	❶（1） 週末や長期休業中の課題を計画的に生徒に課す。 （2）1年時においては中学校の学習内容と高校の学習内容と比較し、円滑な接続を図る。 ❷（1）シラバスを作成し、内容の精選、学習内容の系統的配列を工夫する。 （2）アクティブ・ラーニングの観点を取り入れた指導を行い、自ら学ぶ姿勢を育む。	❸（1）3年時に開講される選択群の科目設定の見直しを実施する。 （2）生徒の進路希望を取り入れた外部講師による授業を実施する。 （3）新学習指導要領に則した教育課程・指導内容の精選を図る。	❶ 各教科で計画的に課題を与えることができた。しかし取り組み状況を上げるためにどうしていくのかが今後の課題である。生徒の基礎学力を授業担当教員が把握し、ポイントを明確に絞った授業計画がなされていた。	3.1	3.3	3.4	3.0	3.4	3.8	3.1
	❷自ら学ぶ意欲を育てる			❷シラバスを作成し、各教科で工夫し主体的・対話的で深い学びの実現を意識した授業を行うことができた。	3.2	3.2	3.4	3.1	3.3	3.6	3.1
	❸個に応じた学習指導の徹底			❸選択科目を再検討し、生徒のニーズや進路実現に必要な科目の設定を行った。新学習指導要領について何度も会議を行い、どのようなものが本校の生徒に適しているのか現在も話し合っている。	3.0	3.1	3.3	2.9	3.0	3.6	3.3
進路指導	❶生徒が自らの生き方や進路 について考えるとともに、社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観・職業観を身に付け、それぞれの能力・適性・関心に応じて主体的に進路を選択できるよう、支援・指導を行う。	❶（1）昨年度立てた3年間の進路指導計画を、学年と連携しながら実践的に遂行する。 （2）「学習ポートフォリオ」や行事ごとのポートフォリオ、あるいは進路ガイダンスといった、生徒が自己理解を深め、自己成長を促進する機会を効果的に設定する。 （3）生徒が主体的に進路選択に向かうことができるよう、進路指導室の積極的活用を促進する工夫を行う。	❷（1）学年と協力し、進路ガイダンスや保護者講演会等を計画し、情報提供の機会を増やす。 （2）より良い情報提供を目指し、進路指導室の資料の充実、情報提示の仕方を工夫する。 （3）進路指導室ブログを通して、生徒・保護者・教員を始めとして、校内外に本校の進路指導の現状を伝える。年間30回を目標とする。 （4）進路指導部通信を発行し、生徒・保護者に対し、必要な情報を適時届ける。年間10回を目標とする。	❶（1）学年と連携し、進路指導計画に沿った指導を概ね行うことができた。（2）学習ポートフォリオや進路ガイダンスといった機会については予定していたことに加え、さらに工夫を加え設定することができた。ただ、行事ごとのポートフォリオについては一部不十分であった。（3）学年の協力を得て、低学年も含めた進路指導室利用が増えた。進路指導室の利用価値について3年生が言及した卒業アンケートにおいても、それが見て取れる。	3.3	3.2	3.5	3.1	3.3	4.1	3.5
	❷生徒の進路選択への支援を目標として、生徒・保護者に対して情報提供を積極的に行うとともに、教員に対しても進路指導の現状や課題の共有を積極的に行う。			❷（1）学年の協力により、当初予定していた機会以外にも、集会という情報提供の機会を複数回得た。（2）進路指導室の資料の充実、提示の仕方について既に工夫を加えているが、年度末に向けてさらなる工夫を加えようと計画している。（3）進路指導室ブログを立ち上げ、オープンハイスクールにおいても認知を図った。目標の30回には少々届かないかもしれないが、数値目標を概ね達成できる状況にある。（4）進路指導部通信の発行が滞り、目標達成には遠く及ばず、目標実現に向けてどう工夫すべきかを振り返っている。	3.3	3.2	3.4	3.0	3.0	3.6	3.4
生徒指導	❶「生きる力」を育み、自己肯定感の育成を図る。	❶基本的生活習慣を確立させる （1）時間を守る 遅刻をしない意識を根付かせる。(年6971件を半減3500件) （2）環境整備 場の雰囲気を大切にさせる。ゴミを出さない、捨てないことを徹底させる。 （3）挨拶 挨拶の励行、服装を整えさせる。（スカート丈違反〇〇〇から0へ） （4）学習に取り組む雰囲気づくり チャイムでの着席。 ❷学校行事に主体的に取り組ませ、充実感と自己有用感を積み上げさせる。 （1）「生徒会アワー」「憧華祭」「球技大会」等各種学校行事において、多くの生徒にリーダーシップを執らせることで、積極的に取り組む姿勢を育てる。	（2）行事の意義や価値を理解させ、マネージメントの手法を理解させる。また、部活動においてはキャプテン・マネージャーミーティング（CMミーティング）を通じて部活動生徒のありり方や行動を徹底させる。 （3）生徒に主体性をもって校則を考えさせ、生徒の意見を取り入れた校則の見直しを実施する。 ❸安全・安心な学校づくりに寄与する （1）関係部署と情報を共有する。 （2）常に生徒と向き合う姿勢を発信し、相互理解の礎を構築する。 （3）いじめに対する未然防止と問題発生時の早期対処を徹底する。	❶基本的生活習慣の確立させる。 ・遅刻 年6971件から1,2年生は過去3年間で最少、減少傾向。・環境整備 美化ウイークの各学期に1回実施。部活動による校外清掃実施。・挨拶 生徒会による挨拶運動、服装を整えさせる。（スカート丈違反が減少）	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.9	3.1
	❷自律型高校生を育み、何事にも挑戦する態度を醸成する。			❷学校行事に主体的に取り組ませ、充実感と自己有用感を積み上げさせる。 ・「憧華祭」「球技大会」「部活動」等特別活動において、多くの生徒にリーダーシップを執らせ、積極的に取組む。 ・合服及び防寒着について生徒に主体性をもって校則を考えさせ、生徒の意見を取り入れた校則の見直しを実施した。	3.2	3.3	3.4	3.1	3.3	3.7	3.1
	❸学校・家庭・地域・警察を含む関係機関との連携を図り、生徒の健全育成及び問題行動の未然防止に努める。			❸安全・安心な学校づくりに寄与する いじめアンケートを年3回実施し、いじめに対する未然防止と問題発生時の早期対処を徹底する。	3.4	3.4	3.5	3.4	3.5	4.1	3.0
図書・人権	❶図書室の利用状況の向上	❶（1）図書委員会を月1回行い、生徒に適した運営を行う。コロナ禍の下貸出数も少なく、貸出カウンターに蜜で生徒をおけないので職員で対応している現状である。 （2）設置された生徒用コンピュータの利用の充実。 （3）生徒向けタブレット、生徒向け無線LANの構築 来年度から新入生が個人購入、機器選定、規定の見直しも必要であるが、 ❷（1）人権教育基本方針の確認・掲示する。「snsでの人権」朝日新聞 西見誠一氏12月実施予定 （2）人権LHRでの指導案の反省、検討と意見交換を行う。	❸（1）アクティブラーニング室の利用環境の充実。憧華祭で体育館よりの中継がうまくいった、アクティブラーニング室からも常時できるようにしたい。 ❹「図書人権」という分掌名であるが、昔の視聴覚係の名残か情報機器も対応している。来年度から新入生が個人購入される等情勢が変わっている、クラス減で職員定員も少なくなっている、分掌名・担当内容を見直す必要がある。	❶コロナ対策のため蜜にならないようにするため生徒に係りの担当をさせなかった。図書会議も行っていない。閲覧室の席の位置をコロナ対策で制限したため、逆に利用を制限する必要があった。	2.7	3.0	3.1	2.8	2.8	2.6	3.4
	❷特別支援教育の手法や観点での職員研修会の実施			❷「snsでの人権」のテーマで朝日新聞 西見誠一氏12月実施した。コロナ対策で2年のみ体育館でライブで受講、他学年はTVとした。	2.1	2.3	2.8	2.0	2.2	2.7	2.9
	❸情報機器を利用しやすい環境の構築			❸アクティブラーニング室の利用環境の充実でこの部屋からも中継環境を構築中である。結果的にコロナ対策策で中継システムは役だったが、早く元の状態に戻ってほしいい。	2.5	2.7	2.7	2.4	2.6	2.4	3.6
保健	❶保健活動の推進	❶（1）コロナウイルス対応策を実施する。 （2）学校保健安全計画の立案、実施による健康管理保健教育の徹底させる。 （3）生徒保健委員会の自主的な実践活動の促進する。 （4）生徒の健康意識の高揚を図る。 ❷（1）学校医・委嘱医療機関・地域社会との連携による疾病の予防と早期治療の指導を行う。 （2）規則正しい生活習慣を身につけさせるための指導を行う。		❶（1）コロナウイルス対策については、手洗いうがい・手指消毒の徹底、昼食指導（巡回）、校内の消毒作業等を行い、感染予防対策を講じた。1年を通して前述した対策を講じてきたことから、少しずつ生徒の意識も高まってきたように感じる。	3.0	3.0	2.9	2.8	3.0	2.8	3.5
	❷疾病の予防と早期治療、生活習慣の確立			❶（3）各クラスの保健委員と連携をし、各種健康診断に関わる仕事や教室内の換気を中心とした環境整備を呼びかけてもらうなど、主体的に活動ができるように取り組めたように思う。	2.9	2.8	2.9	3.1	3.0	2.8	3.3
	❸教育相談活動の推進と「合理的配慮」の適切な提供				3.0	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.5
	❹安全点検の励行と事故防止			❷年度当初に各種健康診断を実施し、疾病の予防と早期発見・早期治療を進めることができた。 またキャンパスカウンセラーとも連携し、生徒の内面理解を図るとともに、問題の解決に向けて対策を講じることができたように思う。	2.8	2.0	2.5	2.9	2.0	2.8	2.9
総合健康類型	●1年次 アクティブ・ラーニング、コミュニケーション力の向上	❶コロナウイルスの影響で実施できることを行う。 ・外部講師の調整中 ❷コロナウィルスの影響で実施できることを行う。 ・コーチング・ティーチング ・他人の気持ちを理解する心のはたらき ・テーピング入門 ・健康なからだをつくるための体力トレーニング ・障害と障害者のとらえ方 ・筋の仕組みを調べる方法 ・レクリエーションの学び ・関節運動について ・外部講師の調整中	❸コロナウィルスの影響で実施できることを行う。 ・姿勢は人を劇的に変える ・理学療法士の仕事について ・防災・減災 ・外部講師の調整中 ・手話講座 ・地域交流 わかばの森保育園 2回 ・卒業論文	❶救急救命法、大学講師による「アサーションコミュニケーション・傾聴」「チームビルディング」							
	●2年次 スポーツ、医療等			❷柔道整復師の仕事・幼児に大切な遊び・「身体のしくみ～構造と機能～」・競技力向上と食事・心理学自主的に生きる・スポーツを通じた地域活性化・幼児教育についてAIを利活用した医療環境設計・笑いと心を科学する爆笑計等							
	●3年次 スポーツ、医療等			❸理学療法士について・姿勢は劇的に人を変える・対人援助職の心のケアについて・スポーツ栄養学・筋肉と骨格筋について・防災・減災について・手話講座・モチベーションのあげ方・卒業論文等							